

(1)

昭和21年7月10日第3種郵便物認可



珍しい 巻き貝 トウカムリ



生きたまま白浜町鴨居で捕獲されたトウカムリガイの裏(上)と表(下)
11月19日、白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所で

白浜で生きたまま捕獲

紀南地方で生きたまま捕獲されることがほとんどない南方系の巻き貝トウカムリガイ(唐冠貝)が、白浜町鴨居の岩場で捕獲された。譲り受けた白浜漁協の福田享史さん(47)が京都大学瀬戸臨海実験所に寄贈し、近く水族館で展示する。

今回捕獲されたのは殻高16センチ、殻径13センチで県内最大級。今月16日、水深3～10メートル付近の海底に仕掛けられたイセエビの刺し網にかかっていた。

トウカムリガイはインド洋から西太平洋に分布し、紀伊半島が北

近く京大水族館で展示

限とされている。殻高20センチに達する大型の巻き貝。殻は厚く重いこぶ状の突起があり、殻口は狭く細長い。同実験所職員の田名瀬英朋さん(62)も15年前に南部町界の漁港で見たことがあるという。

日本貝類学会評議員の小山安生さん(72)によると「過去60年の収集歴で生きた個体を見たのは数例。紀南地方では非常に珍しい」と話している。また、小山さんは2000年11月に同種貝(殻高約13センチ、殻径約11センチ)を県立自然博物館へ寄贈しており、昨年11月まで4年間飼育されていた。